

The Nara Anesth Times

NEWS LETTER Vol. 24

奈良県立医科大学 麻酔科学教室 情報誌

Nara Medical Department of Anesthesiology

発行所：奈良県立医科大学 麻酔科医局 〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840

Tel:0744-29-8902 Fax:0744-23-9741 HP:<https://anes.naramed-u.ac.jp/>

◆ 50 周年から次の時代へ

奈良県立医科大学麻酔科学教室
教授 川口 昌彦

2024年10月6日（日曜日）に JW マリオット・ホテル奈良にて奈良県立医科大学麻酔科学教室 50 周年記念祝賀会を開催させていただきました。全国麻酔科関連の先生、関連病院の先生、専門研修連携施設の先生、同門会の先生など計 131 名にご参加いただき盛会に終了することができました。また、遅くなりましたが 50 周年記念誌を 2025 年 7 月発行で発刊させていただきました。多くの先生方に寄稿文を執筆いただきましたことを御礼申し上げます。50 年の沿革やこれまでの思い出の写真、業績集などを見ると時が過ぎるのがとても速く感じるとともに、多大なご努力で立ち上げられた諸先輩方に心より感謝いたします。築いていただいた歴史を、次世代の先生方に引き継ぎ、更なる発展していく素地になればと思います。

奈良県立医科大学は、開学 80 周年を迎え、2025 年 4 月より畝傍山キャンパス（新キャンパス）が開校しました。これまでの四条キャンパス（旧キャンパス）からは、徒歩 15 分ほどかかりますが、畝傍山を背景にした心地よい空間が広がっています。NHK 大河ドラマ「どうする家康」の音楽も担当された稲本響さんの作曲による奈良県立医科大学「学歌－奈良から世界へ－」も完成し公開されています。2025 年は奈良医大の 80 周年記念イヤーとして本学の未来への一歩とも位置づけられています。2030 年には医大新駅、2031 年には 5000 人収容のアリーナ、2032 年には新外来棟の建設が予定されています。新外来棟の設置に合わせ、手術室を 15 室から 21 室（デ

イサージェリー3 室含む）、集中治療室を 14 床から 18 床に増床します。本学の益々の発展と麻酔科医のニーズが増加するものと予想されます。国として推進している医療の集約化が益々進むものと考えられます。我々麻酔科もその追い風に乗れるようアンテナを張って行動していきたいと思えます。

各病院で赤字決算が広がる中、我々麻酔科医も病院の生き残りに向けた取り組みや経営努力が求められています。手術件数の維持・増加は必須ですが、病床の稼働率の向上も必須になります。本学でも 90% 以上の稼働率を達成しないと経営状況が改善しないため、様々な工夫をしていく必要があります。効率的な手術室運営を実施するとともに、土日祝や時間外などの緊急手術、ER 患者などの受け入れなども重要になってきます。また、働き方改革が進む一方で、人員の増加（採用）枠は限られるため、周麻酔看護師、特定看護師、麻酔アシスタント CE などとの多職種チーム医療の推進はまさに生命線です。一方、日本麻酔科学会から提言された安全管理指針は、患者の安全を十分に配慮したものであり、多職種チーム医療にあたっては提言を遵守していく必要があります。これからの未来に向かって持続可能な体制構築するため、新たなアイデアを模索しチャレンジする必要性を感じています。医療 DX を推進するなど柔軟な姿勢で、未来に向かっていければと思います。

今後ともどうぞよろしく願いたします。



奈良県立医科大学麻酔科学教室
50周年記念祝賀会集合写真

◆医局長挨拶



奈良県立医科大学麻酔科学教室 田中 暢洋

本年2月より医局長を拝命いたしました田中暢洋です。2020年4月に奈良医大麻酔科学教室に入局し、5年足らずでこのような重責を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

ご存じの方も多いかと存じますが、私は北海道大学侵襲制御医学講座（現：麻酔・周術期医学教室）で長年勤務しておりました。北大では医局長選挙により医局長が選ばれ、医局長の指名する内務・外務・会計の三役も加わって医局運営を担います。私自身も内務・外務を合わせて4年間務め、医局運営の一端を担ってまいりましたが、新天地で医局長にご指名いただくことになるとは想像もしておりませんでした。

当初は全ての業務を一身に担うものと想像しておりましたが、川口昌彦教授をはじめ、副医局長の甲谷太一先生、前医局長の園部奨太先生、前々医局長の西和田忠先生のお力添えを得て、新たな体制で歩み始めることができたと感じております。

近年はコロナ禍や働き方改革の大きな波に直面し、前任の先生方のご苦勞を間近で拝見してまいりました。世界平和、無病息災を願う日々ですが、すでにフェンタニル供給不足など新たな課題も生じ、気の休まらない日々が続いております。

まずは、この一年、入局された全ての先生方が日々を楽しく、充実して過ごせる環境づくりに注力したいと考えております。最近の学生や研修医は、(いわゆる「直美」問題の危うさにも気づき、) 将来像が具体的に描ける診療科を重視

する傾向があると言われており、そのロールモデルとして入局された先生方のご活躍は教室の発展に欠かせないものと考えております。麻酔学という奥深い学問と、奈良医大麻酔科が築いてきた温かな医局の伝統を次代へと継承し、より多くの先生に魅力を感じていただけるよう尽力する所存です。

関連病院の現状については、私自身まだ十分に理解が行き届いていない部分もございます。この機会に皆様からのご指導を賜れば幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

予想通りやや堅い挨拶文になってしまいましたので、最後に簡単に自己紹介を加えさせていただきます。

【趣味 / 好物】競馬(競馬歴>30年)、カレー(作ります)、ビール、白州のハイボール、メロンクリームソーダ、コロケ、広島東洋カープ皆様と気軽にお話しできる機会を楽しみにしております。



◆奈良県立医科大学麻酔科学教室

50周年記念誌発行を終えて

奈良県立医科大学医療の質・安全管理センター 西和田 忠

2024年10月6日に奈良県立医科大学麻酔科学教室は50周年記念式典を無事に挙行之、このたび記念誌を発行する運びとなりました。編集にあたり、多くの先生方より心温まる寄稿文を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。そして、記念式典の運営・司会、記念誌編集という形でこの歴史に関われたことを心より光榮に思っております。

さて、当教室が開講した1974年、私はまだ生まれておりません。当時を知らぬ身ではありますが、せっかくなので1974年の出来事を調べてみました。田中角栄内閣が総辞職し、読売ジャイアンツがV10を中日ドラゴンズに阻止され、長嶋茂雄氏が引退した年。

ちなみに日本一はロッテオリオンズだったようです。……正直、「だから何やねん」と言われそうですが、戦後30年を目前に一つの時代が終わり、新たな時代が始まろうとしていたその年に、奈良に麻酔科という新しい歴史が刻まれたことに、私は妙な感慨を覚えました。

編集作業では、これまでの多くの業績や諸先生方のご寄稿、貴重な写真に触れることができました。デジカメと違う昭和から平成の

貴重なフィルムの写真の中で、令和のコンプライアンスにより泣く泣く掲載を断念した写真もございますが、興味のある方はぜひ医局にお立ち寄りください（閲覧自由です）。

業績、寄稿文、写真を通して、まだまだご活躍されている草創期の先生方のご尽力を改めて実感し、私たちが今、安心して診療できているのはその礎あってこそと感じ入るばかりです。そして次の50年先の未来にも誇れる教室であり続けたいと、心新たにしております。

この記念誌が、皆様一人ひとりの新たな歩みの一助となれば幸いです。



◆厚生労働省で働いています

奈良県立医科大学麻酔科学教室 吉村 季恵

今年の5月から、人事交流枠の医系技官として勤務しています。厚生労働省は霞が関にあって、国会議事堂と日比谷公園に挟まれたところにあります。省庁の中でも特に働いている人が多いので（厚生省と労働省と環境庁が一部入っています）27階建てのビルの中にぎっしり詰め込まれています。

私の所属は厚生労働省保険局医療介護連携政策課データ室とすごく長いので電話対応の時は必ず嘔みます。仕事内容はNDBデータの保守、運用、提供体制の改善です。NDBとは匿名医療保険等関連情報データベース（NDB; National Database of Health Insurance Claims）が正式名称で、厚生労働省が所管する公的データベースの中で最大のもので、外来だったら月末に提出するレセプトや、入院だったら退院時に提出するレセプト（DPCではない）や調剤レセプト、特定検診情報等をデータベース化したものです。

去年から死亡情報が格納され、今後は訪問看護の情報など格納情報は順次拡大します。少し先の大きなテーマとしては厚生労働省が運用している複数の公的データベースの一元化があります。忙しい臨床研究者にももっと親しみがあって使いやすいデータベースになるよう日々改善に取り組んでいます。

NDBデータを主に取り扱っているのは私ともう一人の技官の2人です。予算や調達を助けてくれる事務官や、法令さん（官僚のこと）と協力して仕事を進めています。同じ部屋には50人ほどのデスクがありますが、仕事はバラバラです。マイナンバーカードと保険証の連携の仕事をしているオンライン資格対応の人や、医療適正化室の人がいます。医療適正化室は医系技官が室長1名だけなので、微力ながら仕事をお手伝いしています。OTC医薬品の取り扱いや、医療費適正化に関する仕事です。

5月に来たときは国会が始まっており、6月22日の閉会まで結構ぶりついたムードを醸し出していました。その時は自分の仕事でいっぱいいっぱい気が付かなかったのですが、国会が終わって、選挙があって、今かなり部屋全体が落ち着いていると感じます。毎朝国会中継を大音量で流しながら仕事をし、閉会後は福岡大臣の会見を中継していました。ときどきおおーとかなんでなんだよっとかどよめきが起って、みんなの注目度がわかります。厚労省の仕事の一つに主意書といって国会議員からの質問を速攻で返す仕事があります。また、議会のテーマに選ばれると、大臣や議員に事前の答弁のためにレクチャーをしに行く（しかも国会前とか後なので早朝とか深夜）があります。議会で注目されるとこのような仕事が増えてしまいます。注目されているかどうかは規制改革実施計画や骨太の方針に盛り込まれているかどうかで決まるようです。

見学は随時受け入れています。学生さんや研修医の先生にも来てもらって、病院とは違う医師の姿を見て見聞を広げてもらうのも、私が、貢献できることの一つかなと考えています。

仕事はまだまだ慣れませんが、みなさんに還元できるような知識を得られるように、まだしばらく頑張ります。



◆留学報告

奈良県立医科大学麻醉科学教室 小川 裕貴

Aloha!

2024年8月から2025年8月まで、Department of Geriatric Medicine, University of Hawaii's John A. Burns School of Medicine への留学の機会をいただきました。まず、人員の厳しいなか留学を許可して下さった川口教授をはじめ医局員の皆様に感謝申し上げます。

Hawaii 州都 Honolulu にある UH 医学部への留学は、奈良医大公衆衛生学の博士課程で学んだ医療ビッグデータを用いた研究の経験を活かせる留学先として新規開拓しました。(本当はアメリカ西海岸に行きたかったのですが、少し西に行き過ぎました。) 新規開拓には多大な苦労があり、書ききれないので割愛しますが、公衆衛生の人脈を頼り、最終的には単身現地で交渉しました。最近ではweb会議も盛んですが、対面でこそ伝わる熱意もあるのかなと勝手に思っています。

Hawaii 留学というバカンスのような生活を想像されるかもしれませんが、実際は全米 No.1 の生活コストに加えて、円安の影響でとても慎ましいものでした。そのため観光客が行くお店には滅多に行けませんでしたが、快適な気候と豊かな自然はタダなので、休日は昼食持参で島中のビーチ、展望台、トレッキングなどに出かけ家族と思い出作りをしました。ちなみに、Hawaii には他にも Big island (ハワイ島)、Garden island (カウアイ島)、Magic island (マウイ島) などがありますが、どの島も個性があり楽しいです。

Geriatric では Honolulu Heart Program という 1965 年から現在まで続く 8006 人の日系人男性を対象とした貴重な長期コホートを使用し、血圧と認知機能に関する臨床研究を行いました。

オフィスは元々 Japanese Hospital として建設された Kuakini Medical center にあり、とても welcome な雰囲気の中研究ができました。

Mainland への留学でないので不安な面もありましたが、日常生活では住民と観光客で住み分けがされており、英語圏ならではの経験がたくさんできました。一方で、英語に疲れた時は日本語で活動ができる場所もあり、麻酔科医の大好きなオンオフのある生活で自分には良い留学先だったと思います。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この経験を今後を活かし、医局にも何か還元できれば嬉しいです。Mahalo.



留学先のスタッフと(中央が教授)



Kuakini Medical center

◆土庫病院のご紹介とごあいさつ 麻酔科研修プログラムへの参加に寄せて



土庫病院 麻酔科 栗崎 基

土庫病院麻酔科栗崎と申します。このたび、奈良県立医科大学麻酔科研修プログラムの連携施設として、社会医療法人健生会土庫病院が参加させていただくこととなりました。今後ともどうぞ

よろしくお願いいたします。

さて、土庫病院といえば「名前は聞いたことあるけど…」という先生がほとんどでしょう。実はこれまで奈良医大麻酔科学教室から来ていただくことがほとんどなかった病院です。この機会にご紹介申し上げます。

土庫病院は近鉄大和高田駅より徒歩15分程度にある199床の急性期病院です。主な診療科は総合診療科、救急科、消化器内科、大腸肛門科（外科）などで、手術は腹部消化器疾患を主とした外科全身麻酔手術を年間約350件行っています。他には脊髄くも膜下麻酔での痔核、痔瘻手術も年350件ほどにのぼります。

麻酔管理においては、神経ブロックやIVPCAに加え、癌の手術や開腹に関しては可能な限り硬膜外麻酔（年間130件程度）を施行しています。緊急手術も昼夜問わず発生し、全身麻酔による緊急手術は年間65件程度です。

現状では週1回、麻酔科医が参加して術後疼痛管理回診を実施しています。麻酔外来から術後まで麻酔科医が関わることで、患者さんに安心と、質の高い鎮痛を含む術後ケアを提供できるよう努力しています。

研修においては専攻医の先生方に全身麻酔＋硬膜外麻酔を多く経験していただけます。脊髄くも膜下麻酔も、もし研修希望あれば外科と相談して麻酔科実施・管理とすることも可能です。そして、小さな病院だからこそ、患者さんに顔と名前を覚えてもらい、病棟や外来で声をかけていただける、そんな小さな幸せも味わってもらえればと考えております。

今回の連携をきっかけに、奈良医大麻酔科学教室の皆様との結びつきがさらに強まることを期待しております。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



土庫病院からみた夕陽



◆副医局長就任のご挨拶と専門研修プログラム説明会のご報告

奈良県立医科大学麻酔科学教室 甲谷 太一

2025年1月の医局総会より麻酔科学教室の副医局長を拝命いたしました甲谷太一です。身に余る大役を仰せつかり責任の重さを痛感するとともにご指導くださった先生方そして日々ともに診療・研究・教育に携わる仲間の先生方に心より感謝申し上げます。

さて、大学麻酔科の近況と申し上げますと去る7月26日土曜日に難波にありますスイスホテル南海大阪にて、奈良県立医科大学麻酔科学教室の専門研修プログラム説明会を執り行いました。今年も多くの研修医の先生方そして、医学部の学生の方にご参加いただき活発な意見交換が行われた充実した会となりました。

まず初めに、川口教授より当科の理念や専門研修プログラムの全体像についてご説明いただき、続いて恵川先生より具体的な専門研修とくにICU研修での症例の幅広さや指導体制などについて詳しくご紹介いただきました。さらに現在当科で研修中の専攻医平野先生にも登壇いただき、実際の研修の様子や日々の業務、学びのポイントなどを自身の経験を交えて語っていただきました。参加者の先生方にとってより現実的な視点から研修生活をイメージする助けとなったことと思います。佐々木先生からは「研究との両立は可能か?」「将来のキャリアパスの選択肢は?」といった具体的かつ多岐にわたる内容についてご説明いただ

き、充実した説明会になったと存じます。

ハンズオンセミナーも盛況となりました。麻酔科で日常的に求められる基本手技に焦点を当て、硬膜外麻酔・エコーガイド下血管穿刺・末梢神経ブロック・気管支鏡による気道評価の4セッションを設け少人数グループ制で実技を体験していただきました。各ブースでは、当科の指導医・専攻医が講師となり、デモンストレーションを交えながら手技について丁寧に解説し、実際の器具や模擬モデルを用いて、参加者自身が繰り返し手技を練習できるよう配慮しました。特に、エコーガイド下での穿刺や神経ブロックのセッションでは、プローブの操作や画像の読み取りに苦戦しながらも、参加者の先生方が回を重ねるごとに着実にコツをつかんでいく姿が印象的でした。また、気管支鏡のセッションでは、普段あまり触れる機会の少ない器具に触れられるとあって興味深く取り組まれている様子が見受けられました。

説明会終了後には、参加された先生方と当科スタッフとの親睦を深めることを目的に、ささやかな懇親会を開催いたしました。会場ではお食事とお飲み物をご用意し、少量（中等量？）のアルコールも入って和やかな雰囲気となりました。診療や研修に関する話題はもちろん、日々の生活や将来のキャリアについてもざっくばらんに語り合う貴重な機会となりました。

専攻医やスタッフからは、実際の研修生活や勤務のリアルについて率直な声が飛び交い、参加された先生方にも当科の雰囲気をより身近に感じていただけたのではないかと思います。

また、参加者同士の交流をより深めるため今年もビンゴ大会を実施しました。医局長田中先生・前医局長園部先生お手製のクイズも加わり、大いに盛り上がりました。終始笑顔と笑い声の絶えないひとときとなり、医局の温かさとチームワークの良さを私自身も肌で感じました。今後こうした機会を通じて、麻酔科というフィールドの魅力や当科での研修のやりがいを多くの先生方にお伝えしていきたいと考えております。ご参加いただいた先生方ならびにご協力いただいた先生方に心より御礼申し上げます。

最後になりますが、医局を取り巻く環境は日々変化しており人材育成、働き方の多様化などさまざまな課題に直面しております。そのような中で医局が一層風通しよく誰もが力を発揮できる場であるよう副医局長として尽

力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



奈良医大麻酔科研修プログラム説明会の様子



ハンズオンセミナーの様子



懇親会の様子



◆市立東大阪医療センターのご紹介

市立東大阪医療センター 麻酔科部長 山木 良一

市立東大阪医療センター麻酔科は、病院の前身である東大阪市立総合病院時代は香川医科大学（現在の香川大学医学部）より麻酔科医が派遣されておりました。その後紆余曲折を経て、平成26年（2014年）に熊野先生（現集中治療部長）と中田先生が赴任され、奈良県立医科大学麻酔学教室の関連病院の仲間に入れていただきました。

当センターは大阪府東部約80万人の中河内医療圏の中核病院です。13の外科系診療科が一般の市中病院で行われる凡そ全ての手術を行っています。ロボット補助下の症例が多く、ダ・ヴィンチが2台稼働しています。令和6年度の麻酔科管理件数は4242件、全身麻酔件数は3854件で過去最多でした。

平日は毎日7列から9列の麻酔科管理枠があります。常勤医が充足していないため、毎日ほぼ半分の列の麻酔管理を応援麻酔科医に委ねています。奈良県立医科大学からも週4日応援に来ていただいています（いつもありがとうございます）。さらに時間外緊急手術の対応も週の半分以上を外注している状態ですが、ありがたいことに常勤医を増やしていただいて、オンコール体制も徐々に整いつつあります。

また、当センターは近年初期研修の人気も高いようで、毎年たすき掛けも含めて10数名の研修医が入職します。その中で一人でも多く麻酔に興味をもってもらい、あわよくば奈良県立医科大学麻酔科の専攻医プログラムに送り出すのが私の野望です。昨年当センターの初期研修経験者では植村先生、山本先生以来久しぶりに、米重先生が麻酔科医になってくれました。

手術件数がこれまでの最高となっても、当センターもご多分に漏れず億単位の赤字を計上する厳しい経営環境です。その中で我々ができることは目の前の患者さんに日々真摯に向き合い、適切な医療を提供することです。おかげさまで、よく働くスタッフと元気に仕事をしております。今後も奈良県立医科大学麻酔学教室の皆さまにはお世話になります。何卒よろしくお願い申し上げます。



◆ご挨拶と無痛分娩体験記

奈良県立医科大学麻酔科学教室 阿部龍一、植村景子

先日、新しい家族が増えました。この度は、植村の産育休と阿部の育休、また急な勤務変更や欠勤に対応していただき、医局の皆様には本当に感謝の言葉しかありません。改めてありがとうございます。

今回は、その時の無痛分娩のお話をさせていただきます。

【Side A～阿部の視点～】

当初出産予定のクリニックは無痛分娩をやっておらず、ちょっと困ったなと思っていました。何故なら、某た〇ごクラブ・ひ〇こクラブといった本の「妊娠・出産・育児で感じた夫への不満」みたいな話で出てくるのが、「陣痛で苦しむ横でスマホいじってた夫に殺意が湧いた！」といった内容だからです。

結局は大学での出産になり、無事に無痛分娩予定となりました。そして当日、穿刺・カテ入れ事体は容易で、楽勝！と思ったのですが、妻は「右しか効いてない！」と言います。カテよ抜けるな！という思いで挿入長を5cm

にしたのが裏目に出ました。抜浅すると両側効いて陣痛もマシになったのですが、右優位は最後まで変わりませんでした。

しかし硬膜外麻酔は偉大です。陣痛発来後苦しんでいた妻が、カテ入れ後はスマホいじってました。夜もよく眠れ、妨げは1時間毎の助産師さんチェックとフェンタニルによる痒みぐらいでした。翌朝にほぼ痛みなく出産となり、夫として麻酔科医として無事に仕事を果たしたのです。がしかし、当然そんなモノはほんの一部で、今はミルクやり、おむつ替え、沐浴介助、寝かしつけに勤しめます。

【Side U～植村の視点～】

当初私は無痛分娩に消極的でした。しかし、他人に施行するなら自分も経験してみようと、なんとか決意しました。そんな悩む私を尻目に、阿部だけはずいぶん前からやる気満々で、腰痛で苦しむ私の腰をいたわるふりをしてしょっちゅう背骨を確認していました。

さて当日。カテ入れ中は『しっかり局麻した?!』『うわ!カテ入るのわかるわ!!なんか腰のどこ痛い!!』『ちょっと!ちゃんとDPEした?!』『カテ何cm入れたん?!え、5cm?!絶対深すぎるわ!!』『ほらやっぱ片効きやで!もー!だから言ったやん!カテちょっと抜いてや!!』と喧嘩になりそうな植村の勢い。介助・手握りにきてくれた麻酔CEさんも助産師さんも皆苦笑。まあ・・・そんなこんなでいろいろありましたが、結局カテを浅くした後は両効きで(でも右優位で右足がしびれる)、無事に無痛分娩が完了しました。ちなみに、Th9～S領域までよく効いていても、赤ん坊の回旋異常の痛み(骨に当たる痛みらしく、左下腹部だけが異常に痛い)は無痛分娩でも取れないことがよくわかりました。これで、今後の麻酔人生において患者さんにも自信を持って伝えられます。

最後になりましたが、日々忙しく人員が足りない中、産育休をいただき、心より感謝申し上げます。また、勤務を調整していただいたり助けてくださった皆様、体調を気遣っていただいた皆様、無痛分娩時や産後に会いに来てくださった皆様、遠くから応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。とても嬉しかったです。そして、最後までオペ場の自分の机を片付けずに産育休に入ってしまう、大変申し訳ございません。それだけが心残りです。また復帰した際にはががつ頑張ります(汚机も片付けます)ので、これ

からも変わらずどうぞよろしくお願いたします。



◆ごあいさつ



麻酔科学教室 診療助教
宮島 沙希

初めまして。2025年5月より入局させていただきました宮島沙希と申します。熊本県葦北郡という自然の中で育ち、金沢医科大学入学・卒業、初期研修終了後に同大学麻酔科へ入局しました。石川県ではこれまでに体験したことのなかった雪景色も楽しみながら、17年の月日を過ごしました。令和6年能登半島地震の際には奈良県立医科大学付属病院DMATチームの派遣など、温かいご支援いただきありがとうございます。

今回、長女の小学校入学のタイミングにて夫の実家である奈良県へ移住してまいりました。奈良県への移住を決めた際に川口教授にお願いし、現在大学病院の方で働かせていただいております。突然の入局のお願いに快く対応いただき誠に感謝申し上げます。前大学では小児麻酔、産科麻酔などを中心に従事しておりました。

現在、3人の娘の子育て中であり、初めての環境で戸惑うことや時間的制約のあるなかで現場のスタッフの皆様にご助けいただき毎日を過ごしております。

石川県では車で移動する場面がほとんどで、外勤に行くために高速道路を往復100kmほど

運転するという生活を送っていましたが、こちらでは高校生以来の電車での通勤を楽しんでおり、そちらも非常に新鮮です。これまでに経験したことのない手術の麻酔やICU管理などにも興味があり、新しい場所で様々な事にチャレンジしたいと考えております。

今後とも精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



後期研修医 米重 樹穂

2025年4月に入局させていただきました、米重樹穂と申します。奈良県立医科大学付属病院を卒業後、初期研修を市立東大阪医療センターおよび奈良県立医科大学付属病院で行いました。学生のときのポリクリ、また初期研修で麻酔を回らせてもらったときの、「寝てる間に全部終わってますからね」の声かけがすごく印象的でした。実際には寝ている間の、術中の全身の状態を評価し、バイタルや感覚を変えてしまう様々な薬を使いこなし、起こり得る危険を先取り先取りして安全に手術を終えられるようにすることは、大変なことだと思いつつ同時に、自分もできたらカッコいいなと思い、麻酔科を志望しました。また、gradeAの帝王切開や、大動脈解離などバイタルが不安定な緊急手術の際にも冷静に対応されている先生方に憧れました。術中の安全だけでなく、様々なアプローチで術後の痛みをコントロールするのも魅力的で、術後訪問時の患者さんの明るい表情に嬉しくなる時もあります。しかしまだまだその逆もあって、手技の面でも座学の面でも日々勉強不足を実感していますが、その都度先生から熱心にご指導いただいております。

自分も安心安全な麻酔を患者さんに提供できるように、常に成長する気持ちを忘れず一生懸命に励んでいきたいです。何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



後期研修医 藤本 佳那

本年度より麻酔科学教室に入局いたしました、藤本佳那と申します。出身は奈良県橿原市で、大学は和歌山県立医科大学に通っておりました。卒業後は、生まれ育った奈良の医療に貢献したいという思いから、奈良県立医科大学附属病院で2年間の初期研修を行いました。初期研修の中で、術中の循環・呼吸動態の安定化や、術後の疼痛・合併症の予防など、麻酔科医の果たす役割の広さと奥深さを知ることができました。また、幅広い手技における自らの技術が患者さんの全身状態に直結することに大きな魅力を感じました。急変時にも冷静に対応される指導医の先生方の姿に感銘を受け、自身もそのような医師を目指したいと思い、奈良県立医科大学麻酔科学教室への入局を決めました。まだまだ未熟で分からないことや慣れないことも多いですが、指導医の先生方に相談しやすい環境で、充実した日々を過ごしています。様々な手技に挑戦できることを楽しく感じており、より良い術中管理を目指して試行錯誤を重ねながら麻酔を行うことにも、日々やりがいを感じています。中でも、手術が無事に終わり、患者さんが安堵されている姿を目にした時には、この仕事の意義と責任を実感します。

今後とも麻酔科医として一步ずつ成長できるよう、日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



後期研修医 柴田 智世



はじめまして、2025年度より入局させて頂きました柴田智世と申します。奈良県立医科大学を卒業後、奈良県西和医療センターで2年間の初期研修をさせて頂き、母校である

奈良県立医科大学に戻って参りました。元々呼吸と循環を管理する麻酔科に興味があり、西和医療センター麻酔科でご指導頂いたのち、もっと様々な術式やハイリスク症例の麻酔管理がみたいと思い、奈良医大麻酔科での研修をお願いしたところ快諾頂きました。その1ヶ月間、大学でたくさんの先生方の麻酔管理と鮮やかな手技を目の当たりにし「やはり面白い、麻酔科医かっこいい!」と思ったのが麻酔科に入局した決め手でした。今年4月から大学にて日々うまくいかない事もありながら、必死に患者さんと向き合っております。患者さんの指先の温もりや尿量など見つつ、術野とモニターに釘付けの日々ですが、出勤時汗ばむようになってきた今日この頃、やっと遅ればせながら微妙な心拍数の変化に耳で気がつくようになってきたなと感じているところでございます。手技も麻酔管理における判断もまだまだ未熟ですが、サポートして頂いている上級医の先生方に感謝しながら、充実した日々を過ごさせて頂いております。麻酔科医として努力を続け、周りの方々への感謝を忘れずに一步ずつ成長していけるよう精進して参る所存であります。

今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

後期研修医 平野 雅巳



2025年4月から専攻医1年目として入職しました平野雅巳と申します。

福島県立医科大学を卒業後、大阪の大手前病院で初期研修を行い、この度奈良県立医科大学麻酔科に入局させて頂きました。

奈良自体には縁もゆかりもなかったのですが、もともと奈良県立医科大学で働かれていた井上先生が福島県立医科大学で教授をされており、思わぬ縁を感じております。学生時代にICU実習で優しく指導していただいたこと、また自分の実習班員が東京に旅行に行きコロナを麻酔科ローテ中に発症し大迷惑をかけたことを今でも覚えております。

紆余曲折あり関西に戻ってきて大手前病院に入職し働き始めるうちに麻酔科というものに興味が高くなるようになりました。寺田部長や石川先生をはじめ様々な人に教えていただき、学会発表などもさせて頂いたうちに麻酔科として働きたいと思うようになりました。また大手前病院麻酔科には大阪では珍しい福島県立医科大学卒業の先生もいらっしゃる、麻酔科というものに何か縁を感じました。

様々な人や縁に恵まれ入職してから数ヶ月の今、この文章を書いておりますが、とても充実した日々を過ごすことができています。来年度に大手前病院の後輩が入局することも決まり、自分も何か麻酔科に入るきっかけや縁を感じさせるような存在になれば良いと思います。今後とも少しでも成長できるように頑張っていきたいと思っておりますので何卒よろしくお願いたします。

後期研修医 宮本 雅大



本年度より麻酔科学教室に入局させて頂きました、宮本雅大(みやもとまさひろ)と申します。奈良

県立医科大学を卒業後、同大学附属病院にて初期臨床研修を行い、そのまま本教室に入局いたしました。

私は緊急医師確保枠で入学した経緯もあり、以前より麻酔科に関心を抱いておりました。実際に研修で麻酔科をローテートさせて頂いた際、術中管理だけでなく、神経ブロックや硬膜外麻酔といった様々な手技、さらには集中治療・ペインクリニック・緩和医療といった幅広い領域に関わることを知り、その多様性と専門性の高さに魅力を感じました。

入局して間もない身であり、知識・技術ともにまだまだ未熟ではございますが、先生方をはじめ

とする教室の皆様の温かいご指導・ご支援のおかげで、日々学びながら診療に励んでおります。

今後は、より安全かつ質の高い麻酔管理を提供できる医師を目指して、一例一例の症例に真摯に向き合い、研鑽を積んでまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

奈良県立医科大学大学院 看護学研究科1年

岡 佑紀



はじめまして。2025年4月よりお世話になっております周麻酔期看護師教育課程1年目の岡佑紀と申します。以前は兵庫県明石市に

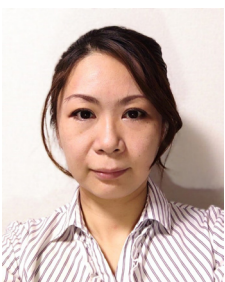
ある社会医療法人愛仁会明石医療センターで手術室看護師、麻酔看護師として勤務しておりました。臨床経験としては今年度で12年目になります。前医入職時よりずっと手術室で勤務し、周麻酔期に興味があったこと、私の先輩が奈良県立医科大学周麻酔期看護師教育課程卒業者で、ご紹介いただいたこともあって奈良医大で働きながら学ばせていただきたいと思いました。奈良医大に来させていただき感じたことは、自分がいかに限られた環境の中で学んできたのかを痛感しました。自分の知らないことがまだまだたくさんあることを肌で感じ、もっと学びを深めたいと感じました。

奈良医大に来させていただき早くも3カ月が経ちましたが、日々学びの連続で、先生方をはじめ、臨床工学技士の方々、手術室看護師の方々など、丁寧にご指導いただき、充実した日々を過ごさせていただいております。

まだまだ未熟で至らぬ点が多いかとは思いますが、精進して参りますので、皆様、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

奈良県立医科大学大学院 看護学研究科1年

鳥居 佳奈子



はじめまして。この度、新たに所属することとなりました、鳥居佳奈子と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は20年ほどの看護師経験のほとんどを手術室で

過ごしていますが、大学病院勤務は初めてです。こちらに来て初めて見る機材機器や術式も多く、手術室数・診療科・症例数や関わるスタッフの人数の多さに最初は圧倒されましたが、数か月経ってようやく少し慣れてきました。大学は4月から新キャンパスに移り、看護学の講義がある日は病院から畝傍山キャンパスまで20分ほど歩いて授業を受けに行きます。真新しい校舎は快適です。行き来がしやすければもっとよかったのに…。

ずっと手術室の看護師でしたので麻酔科医の仕事は近くでみていたのですが、いざ自分が麻酔科側に来てみると全く違う景色でした。改めて麻酔管理は奥が深いし難しいなと感じます。特定行為研修も受けていないので覚えることも多く大変でしたが、先生方にいろいろ教えていただけて助かりました。まだまだ知識も技術も足りないところばかりですけど、しっかりがんばりたいと思っています。

未熟者ではございますが、麻酔科学教室の一員として、患者さんのために全力で取り組む所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。また、患者さんやご家族の皆様に安心していただけるよう、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

周術期管理センター看護師 松田 みほ

はじめまして。千葉県成田富里徳洲会病院から来ました、松田みほと申します。この4月から麻酔科の特定看護師として勤務させていただいております。順調に行けば、来年度に周麻酔期看護学の大学院へ進学し、学生としてお世話になると思います。(勉強頑張りませ…)

手術室の高度な専門性や空気感が好きでずっと手術室で勤務をしてきました。その中で、身近な麻酔に興味を持つようになり、昨年周術期の特定行為研修を終え、1年間麻酔業務に携わってきました。

私の出身は佐賀県です。みなさんは佐賀県を訪れたことはありますか。県が「佐賀の魅力」を“さが”そうと謳っているぐらいなのですが、県民である私もおすすめにいつも困るのですが、11月頃にあるバルーンフェスタはイチオシです。秋の青空にカラフルな気球がたくさん飛んでいてそんな風景は圧巻です。あとは、嬉野温泉でしょうか。日本3大美肌の

湯と言われており、お肌がつるつるになるので好きな温泉です。今回初めて関西に住むにあたって、奈良県の情報は奈良公園の鹿とせんとくん以外は知らずにやってきました。橿原のイオンモールの他、いまだどこにも行けておりません。奈良県を楽しみたいと思っているので、ぜひおすすめがあれば教えていただきたいです。

奈良医大で勤務を始めて、自分の至らない点が多く毎日ご迷惑をおかけしております。一日も早くお役に立てるよう頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。



◆ No 麺's, No Life!

奈良県総合医療センター麻酔科
副部長 新城 武明

百名店

「ラーメン百名店」と呼ばれるランキングをご存知でしょうか。

「食べログ ラーメン 百名店」は、飲食店情報サイトの「食べログ」が2017年に始めたランキングイベントであり、食べログユーザーからの高い評価を得たラーメン店100店を選出する企画です。毎年発表されており、現在2024年版が最新のものとなっています。

食べログをはじめグルメサイト離れが進んでいると言われる昨今ですが、ここまで網羅するサイトも中々ないのではないのでしょうか。

選出基準は、食べログの点数が高く、第一ジャンルがラーメン、つけ麺、油そば・まぜそば、台湾まぜそば、担々麺、汁なし担々麺、または刀削麺に該当する店舗が対象となります。

エリア別に分けられており、「HOKKAIDO」「TOKYO」「KANAGAWA」「OSAKA」「EAST」「WEST」の6エリアになっています。

さて我々が奈良県は「WEST」エリアに所属しており、何軒ピックアップされているかと言いますと・・・なんと12軒！（2024版）人口比を考えてもこれは快挙ではないでしょうか。

参考までに他の県はと言いますと、京都30 兵庫16 福岡12 和歌山7 滋賀5 三重3 石川3 熊本2 佐賀2 徳島2 富山2 宮崎1 香川1 福井1

というわけで西日本（大阪除く）3位タイです。関西はラーメン好きなんではないでしょうか、全ての県がランクインしています。しかし中国地方がありませんね・・・。

本日の一杯

梅花亭（食べログラーメン100名店「west」2023 2024にランクイン）

場所：滋賀県長浜市

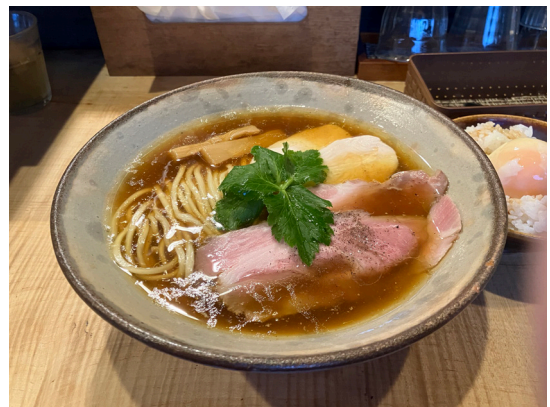
麺：中太麺 ストレート 自家製麺

種類：ラーメン・混ぜそばもあり

スープ（ラーメン）：鳥ガラ 醤油・塩・酒粕（!）・梅（?）

サイドメニュー：餃子、チャーハンなど

鶏・魚介・和出汁の調和が取れた、優しさや深みのある味わい。もちっとコシのある自家製中太ストレート麺。スープとの絡みも抜群。素材にはこだわっておられるようで、名古屋コーチン・片口鰯・鰹・道東昆布（魚介系）、焼きあご・秋刀魚。三重県産のうどん用粉、北海道産の石臼挽き全粒粉・・・HPにいっぱい書いてありました。その結果のか一杯1260円から。あっさり1000円の壁を越えてきました。しかし、常に行列が絶えない人気店のようです。



編集後記

2025年度の広報誌『The Nara Anesth Times』を今年度もお届けすることができました。

ご寄稿にご協力頂きました皆様、ありがとうございました。また、ご覧いただいたご感想などお寄せいただけましたら幸いです。まだまだ暑い日が続きますが、お体に気を付けてお過ごしください。

次回の2026年度版もお楽しみに！